

# 第3次八雲町男女共同参画プラン策定に関するアンケート調査結果

八 雲 町

## 目 次

(1) アンケート調査の概要 . . . . .	1 P
(2) アンケート調査結果	
回答者について . . . . .	1 P
男女平等意識について . . . . .	5 P
町の政策等について . . . . .	9 P
一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて . . .	10 P
その他の意見（自由記載） . . . . .	19 P
アンケート用紙 . . . . .	22 P

## アンケート調査結果

## (1) アンケート調査の概要

アンケート調査名	第3次八雲町男女共同参画プラン策定に関するアンケート調査
調査対象者	町内に在住する10代以上の男女
調査時期	令和6年6月17日～令和6年7月16日
調査方法	webフォームおよびアンケート用紙による回答
回答数	webフォーム：211、アンケート用紙：21 合計：232

## (2) 男女共同参画プラン策定に関するアンケート調査結果

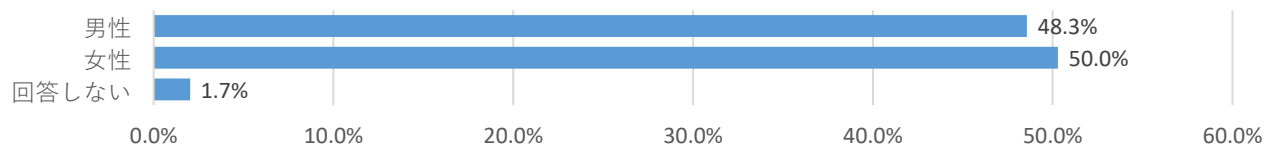
## ①回答者の属性

アンケート回答者の総数は232人であり、回答者の性別は「女性」が50%で、「男性」は48.3%であり、「回答しない」が1.7%になっている。

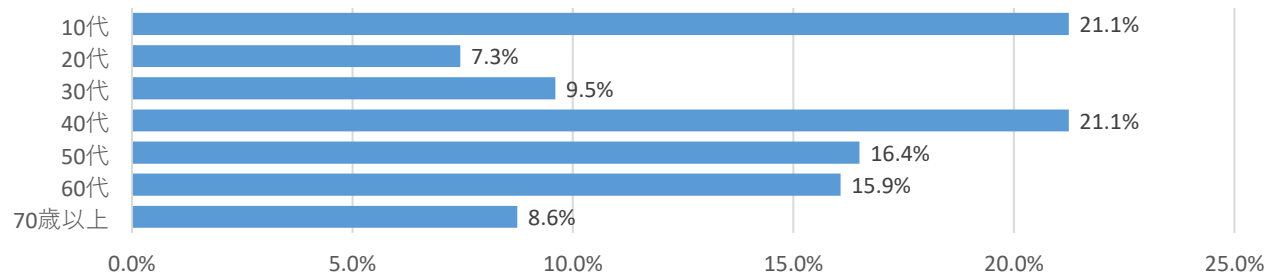
回答者の世代別では、「10代」と「40代」が21.1%で最も多く、次いで「50代」（16.4%）、60代（15.9%）が続いています。

第2次プラン策定アンケート調査時は、回答総数147人で、30代、50代の回答が最も多い結果となっていました。

回答者の性別



回答者の年齢（世代）



性別／年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	計
男性	21	9	8	27	25	15	7	112
(割合)	9.1%	3.9%	3.4%	11.6%	10.8%	6.5%	3.0%	48.3%
女性	27	8	12	22	13	21	13	116
(割合)	11.6%	3.4%	5.2%	9.5%	5.6%	9.1%	5.6%	50.0%
回答しない	1	0	2	0	0	1	0	4
(割合)	0.4%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	1.7%
計	49	17	22	49	38	37	20	232
	21.1%	7.3%	9.5%	21.1%	16.4%	15.9%	8.6%	100.0%

## ※参考【第2次プラン策定時】

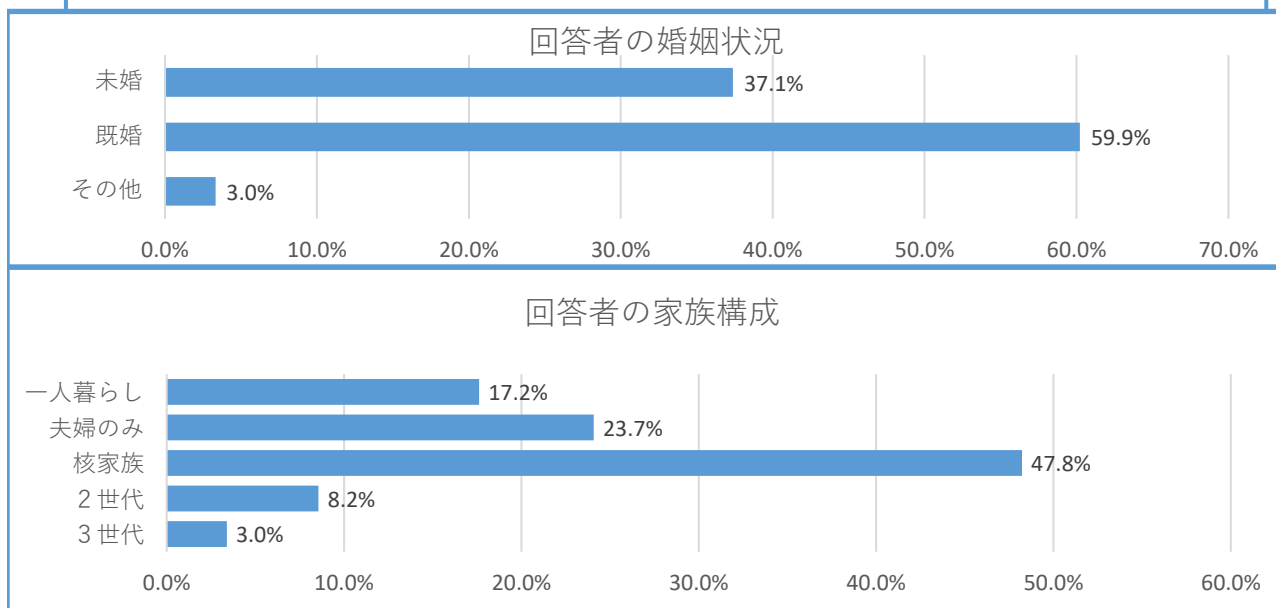
性別／年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	計
男性		7	18	14	15	8	1	63
(割合)		4.8%	7.8%	6.0%	6.5%	3.4%	0.4%	42.9%
女性		10	18	13	21	13	9	84
(割合)		4.3%	7.8%	5.6%	9.1%	5.6%	3.9%	57.1%
計		17	36	27	36	21	10	147
		11.6%	24.5%	18.4%	24.5%	14.3%	6.8%	100.0%

## ②回答者の家族構成

アンケート回答者の総数は232人であり、回答者の婚姻状況は「既婚」が59.9%で、「未婚」は37.1%であり、「その他」が3%になっている。

回答者の家族構成では、「核家族」が47.8%で最も多く、次いで「夫婦のみ」(23.7%)、「一人暮らし」(17.2%)が続いています。

第2次プラン策定アンケート調査時は、「既婚」が72.1%、「未婚」は24.5%であり、前回のアンケートから未婚者の回答が12.6%上がっている。世帯構成については前回アンケートより回答項目が変更となっているため単純に比較は出来ないが、「2世代」同居が28%、「3世代」同居が11.8%下がっている。



婚姻状況	人数	割合
未婚	86	37.1%
既婚	139	59.9%
その他	7	3.0%
計	232	100.0%

世帯状況	人数	割合
一人暮らし	40	17.2%
夫婦のみ	55	23.7%
核家族	111	47.8%
2世代	19	8.2%
3世代	7	3.0%
計	232	100.0%

### ※参考【第2次プラン策定時】

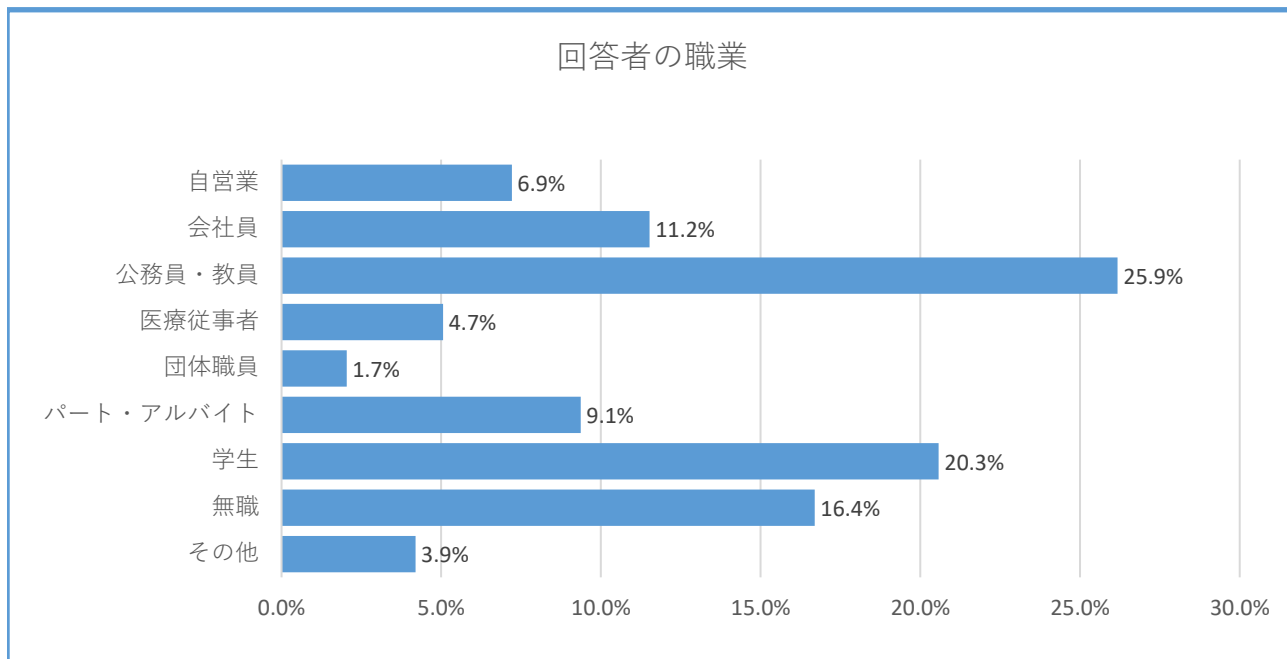
婚姻状況	人数	割合
未婚	36	24.5%
既婚	106	72.1%
その他（無回答）	5	3.4%
計	147	100.0%

世帯状況	人数	割合
一人暮らし	27	18.4%
夫婦のみ	47	32.0%
核家族		
2世代	54	36.7%
3世代	19	12.9%
計	147	100.0%

### ③回答者の職業

アンケート回答者の総数は232人であり、回答者の職業は「公務員・教員」が25.9%で最も多く、次いで「学生」（20.3%）、「無職」（16.4%）となっている。

第2次プラン策定アンケート調査時は、「公務員・教員」が30.9%で最も多く、次いで「会社員」（22.4%）、「自営業」（16.4%）となっている。なお、前回アンケートより回答項目が変更となっているため単純に比較は出来ないが、どちらの調査においても「公務員・教員」の割合が最も多いという結果になった。



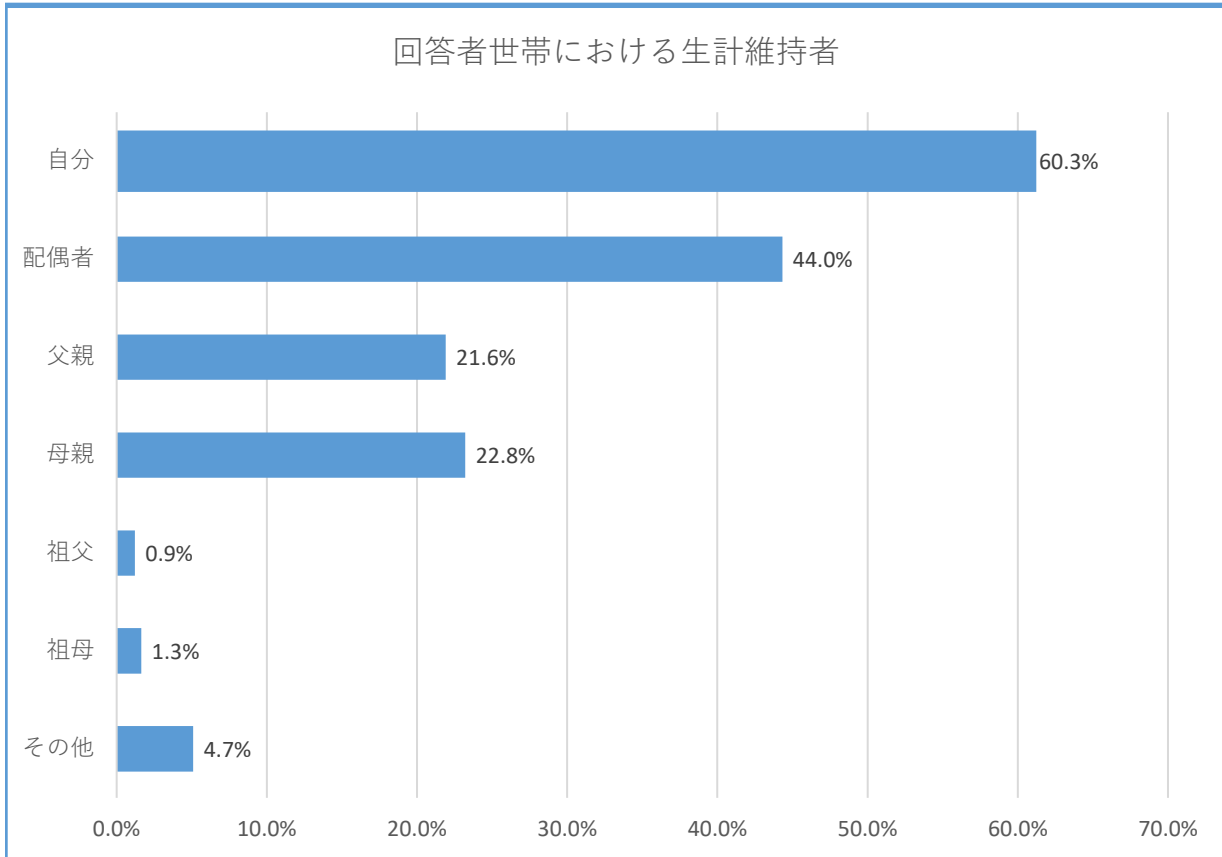
職業	人数	割合
自営業	16	6.9%
会社員	26	11.2%
公務員・教員	60	25.9%
医療従事者	11	4.7%
団体職員	4	1.7%
パート・アルバイト	21	9.1%
学生	47	20.3%
無職	38	16.4%
その他	9	3.9%
計	232	100.0%

#### ※参考【第2次プラン策定時】

職業	人数	割合
自営業	25	16.4%
会社員	34	22.4%
公務員・教員	47	30.9%
医療従事者	0	0.0%
団体職員	12	7.9%
パート・アルバイト		
学生		
無職	10	6.6%
その他	24	15.8%
計	152	100.0%

④回答者の世帯における生計維持者（複数回答可）

アンケート回答者の総数は232人、回答数は361件であり、複数回答のため回答者数における割合で比較すると、回答者の世帯における生計維持者（主に世帯を支える収入を得ている人）は「自分」が60.3%で最も多く、次いで「配偶者」（44%）、「母親」（22.8%）となっている。



生計を維持している人（複数回答）	人数	割合	
		回答数	回答者数
自分	140	38.8%	60.3%
配偶者	102	28.3%	44.0%
父親	50	13.9%	21.6%
母親	53	14.7%	22.8%
祖父	2	0.6%	0.9%
祖母	3	0.8%	1.3%
その他	11	3.0%	4.7%
計	361	100.0%	

⑤男女平等意識について

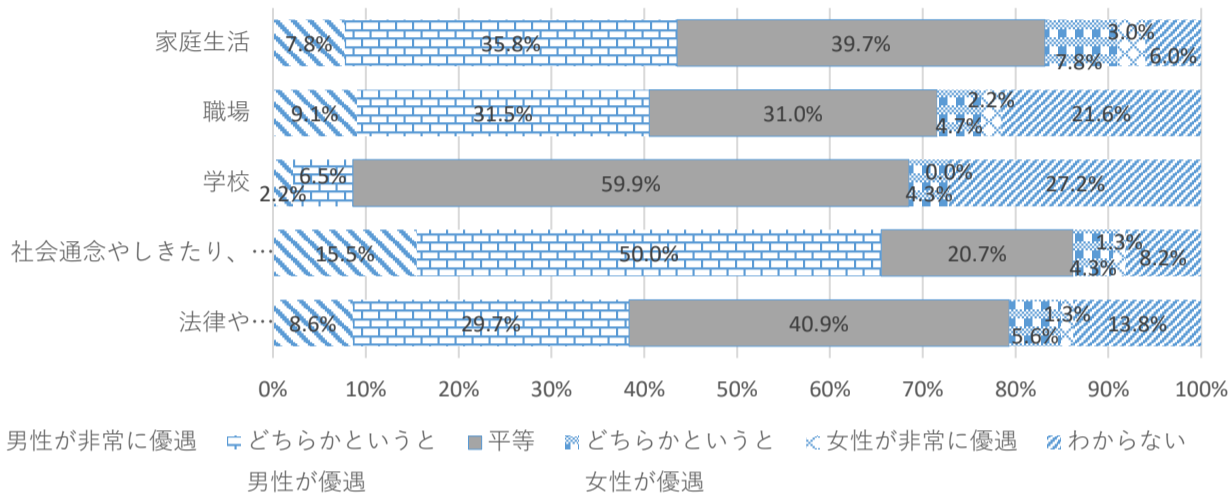
「男女の地位は平等になっていると思いますか。（分野別）」

アンケート回答者の総数は232人であり、家庭生活、学校、法律や制度上の分野においては「平等」の割合が一番高く、職場、社会通念上の分野では「どちらかというと男性が優遇」の割合が高くなっている。

全分野を通して、「平等」を選択した割合が38.4%で最も多く、次いで「どちらかというと男性が優遇」（30.7%）となっている。

第2次プラン策定アンケート調査時は、今回のアンケートと回答項目が一部異なっているため単純に比較は出来ないが、社会通念上の分野を除く全ての分野において「平等」の割合が多い結果であった。ただし、今回の項目には「どちらかというと～」という選択肢があり、この結果を全て「平等」に計上したとすると、全ての項目において「平等」の回答が大多数となる。

男女の地位は平等になっていると思いますか。（分野別）



回答	家庭生活	職場	学校	社会通念やしきたり、習慣等	法律や制度上	計
男性が非常に優遇 (割合)	18 7.8%	21 9.1%	5 2.2%	36 15.5%	20 8.6%	100 8.6%
どちらかという 男性が優遇 (割合)	83 35.8%	73 31.5%	15 6.5%	116 50.0%	69 29.7%	356 30.7%
平等 (割合)	92 39.7%	72 31.0%	139 59.9%	48 20.7%	95 40.9%	446 38.4%
どちらかという 女性が優遇 (割合)	18 7.8%	11 4.7%	10 4.3%	10 4.3%	13 5.6%	62 5.3%
女性が非常に優遇 (割合)	7 3.0%	5 2.2%	0 0.0%	3 1.3%	3 1.3%	18 1.6%
わからない (割合)	14 6.0%	50 21.6%	63 27.2%	19 8.2%	32 13.8%	178 15.3%
計 (割合)	232 100.0%	232 100.0%	232 100.0%	232 100.0%	232 100.0%	1,160 100.0%

※参考【第2次プラン策定時】

回答	家庭生活	職場	学校	社会通念やしきたり、習慣等	法律や制度上	計
男性が優遇 (割合)	32 22.2%	36 25.4%	6 4.5%	74 51.4%	33 25.6%	181 26.1%
どちらかという 男性が優遇 (割合)						
平等 (割合)	68 47.2%	64 45.1%	78 58.2%	29 20.1%	49 38.0%	288 41.6%
どちらかという 女性が優遇 (割合)						
女性が優遇 (割合)	7 4.9%	4 2.8%	1 0.7%	3 2.1%	17 13.2%	32 4.6%
わからない (割合)	37 25.7%	38 26.8%	49 36.6%	38 26.4%	30 23.3%	192 27.7%
計 (割合)	144 100.0%	142 100.0%	134 100.0%	144 100.0%	129 100.0%	693 100.0%

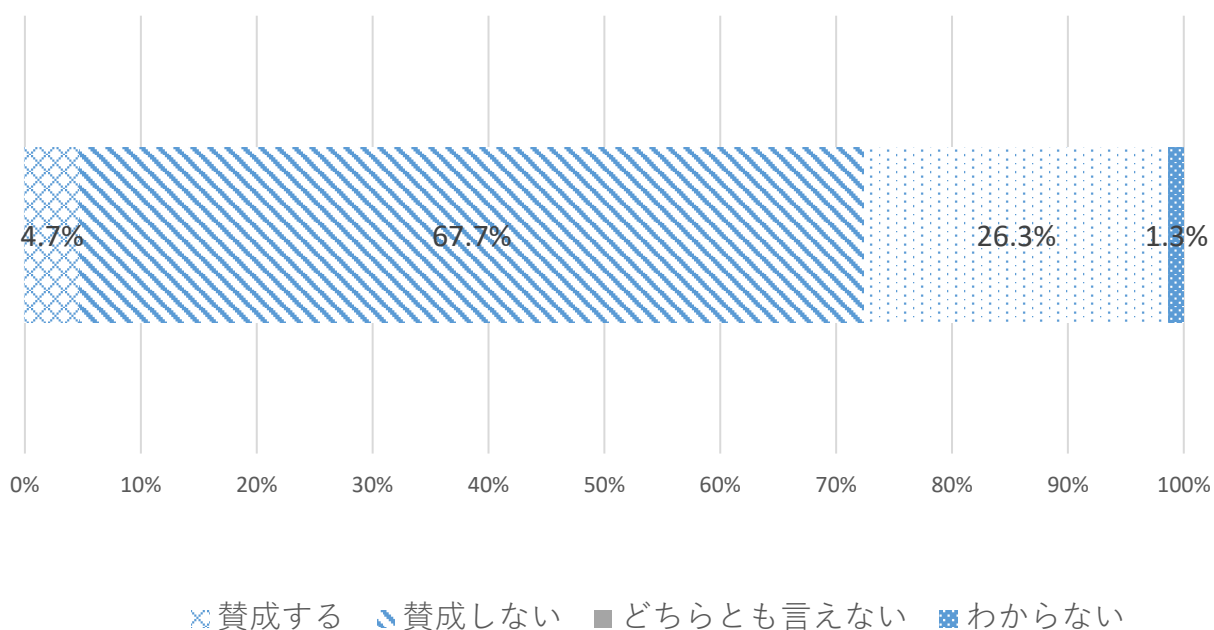
⑤-2男女平等意識について

「男は仕事、女は家庭」といった役割を固定化した考え方について、あなたはどのように思いますか。

アンケート回答者の総数は232人であり、「賛成しない」と回答した割合が67.7%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」(26.3%)となっており、「賛成する」と回答した割合(4.7%)を大きく上回っている。

第2次プラン策定アンケート調査時は、今回のアンケートと回答項目が一部異なっているため単純に比較は出来ないが、「賛成しない」と回答した割合が、前は26.2%であったのに対し、今回は67.7%と41.5%増えている。

「男は仕事、女は家庭」といった役割を固定化した考え方について、あなたはどのように思いますか。



回答	賛成する	11人	4.7%
	賛成しない	157人	67.7%
	どちらとも言えない	61人	26.3%
	わからない	3人	1.3%
	計	232人	100.0%

※参考【第2次プラン策定時】

回答	賛成する	7人	5.0%
	賛成しない	37人	26.2%
	どちらとも言えない	77人	54.6%
	わからない	8人	5.7%
	その他	12人	8.5%
	計	141人	100.0%



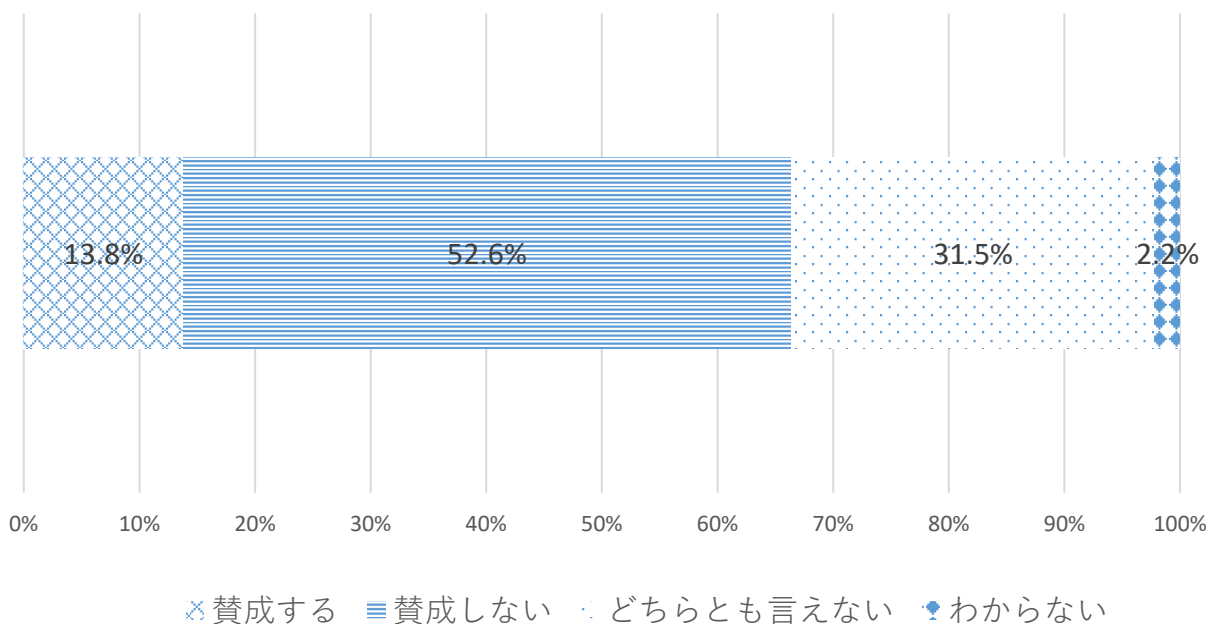
⑤-3男女平等意識について

「男は男らしく、女は女らしくあるべき」といった考え方について、あなたはどのように思いますか。

アンケート回答者の総数は232人であり、「賛成しない」と回答した割合が52.6%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」(31.5%)となっており、「賛成する」と回答した割合(13.8%)を大きく上回っている。

直前の設問「男は仕事、女は家庭」といった役割を固定化した考え方について、あなたはどのように思いますか。」と同様の回答傾向が見られ、第2次プラン策定時から比べても時代背景も含めて男女共同参画の意識が浸透してきたとみることができる。

「男は男らしく、女は女らしくあるべき」といった考え方について、あなたはどのように思いますか。



回答	賛成する	32人	13.8%
	賛成しない	122人	52.6%
	どちらとも言えない	73人	31.5%
	わからない	5人	2.2%
	計	232人	100.0%

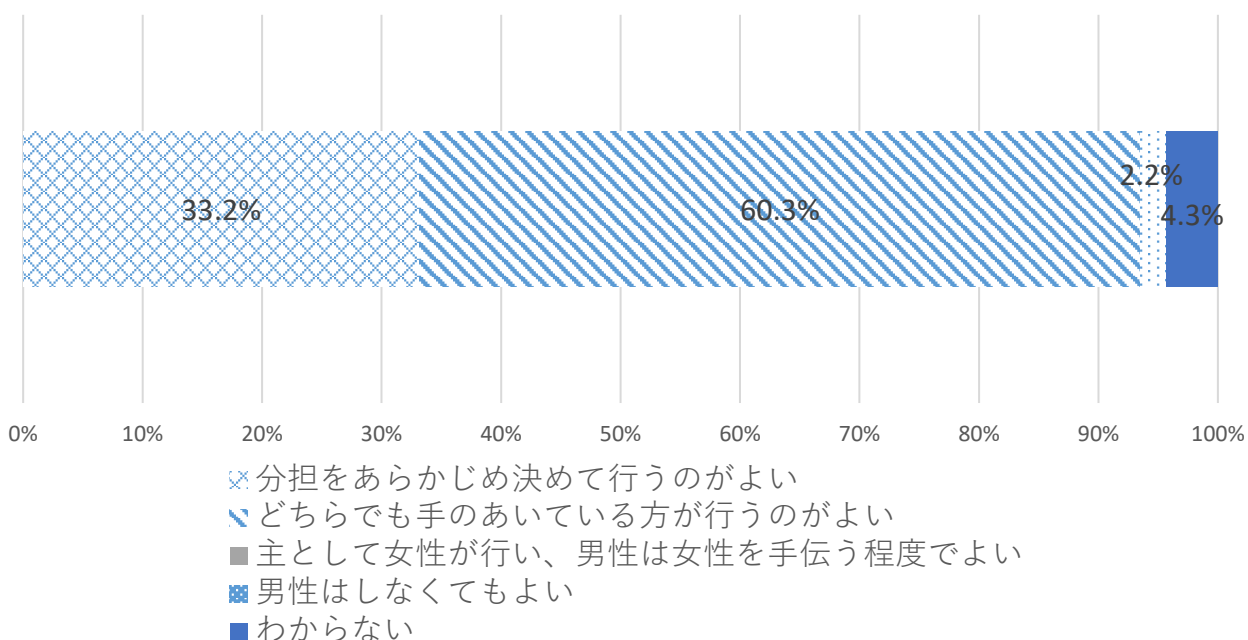
#### ⑤-4男女平等意識について

共働き家庭での家事や育児、介護の役割分担について、どのように考えますか。

アンケート回答者の総数は232人であり、「どちらでも手のあいている方が行うのがよい」と回答した割合が60.3%で最も多く、次いで「分担をあらかじめ決めて行うのがよい」（33.2%）となっており、「男性はしなくてもよい」と回答した人はいなかった。

第2次プラン策定アンケート調査時においても、ほぼ同様の割合となっているが、「主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と回答した割合が、前回と比べ6%減少している。

共働き家庭での家事や育児、介護の役割分担について、どのように考えますか。



回答	分担をあらかじめ決めて行うのがよい	77人	33.2%
	どちらでも手のあいている方が行うのがよい	140人	60.3%
	主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい	5人	2.2%
	男性はしなくてもよい	0人	0.0%
	わからない	10人	4.3%
	計	232人	100.0%

#### ※参考【第2次プラン策定時】

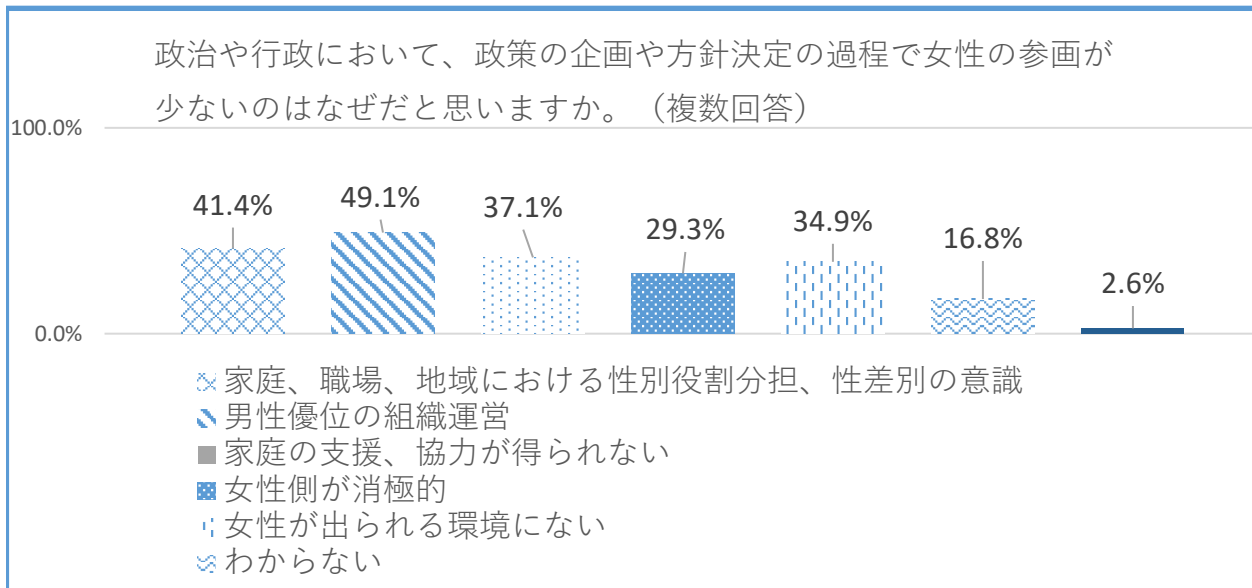
回答	分担をあらかじめ決めて行うのがよい	45人	30.8%
	どちらでも手のあいている方が行うのがよい	83人	56.8%
	主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい	12人	8.2%
	男性はしなくてもよい	0人	0.0%
	わからない	2人	1.4%
	その他	4人	2.7%
	計	146人	100.0%

## ⑥町の政策等について

政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程で女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。（複数回答）

アンケート回答者の総数は232人（複数回答）であり、複数回答のため回答者数における割合で比較すると、「男性優位の組織運営」と回答した割合が49.1%で最も多く、次いで「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」（41.4%）、「家庭の支援、協力が得られない」（37.1%）となっている。

第2次プラン策定アンケート調査時においても、ほぼ同様の割合となっているが、「女性が出られる環境にない」と回答した割合が、前回と比べ1.8%減少しているが、「男性優位の組織運営」と回答した割合については前回よりも10.3%増加していることから、まだ平等ではないと考えている人は割合として一定程度いるということになる。



回答	回答項目	回答数	割合	
			回答数	回答者数
回答	家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識	96人	19.6%	41.4%
	男性優位の組織運営	114人	23.3%	49.1%
	家庭の支援、協力が得られない	86人	17.6%	37.1%
	女性側が消極的	68人	13.9%	29.3%
	女性が出られる環境にない	81人	16.5%	34.9%
	わからない	39人	8.0%	16.8%
	その他	6人	1.2%	2.6%
	計	490人	100.0%	

### その他の記載

- ・そもそも、男性の数が多いから、入りづらいのではないかと（40代男性）
- ・女性が参加しやすい状況になっていない。女性も男性もあまり関心が無い。行政として情報活動や参加しやすいような配慮が必要。方針決定後のフォローをしっかりと行う。（60代男性）

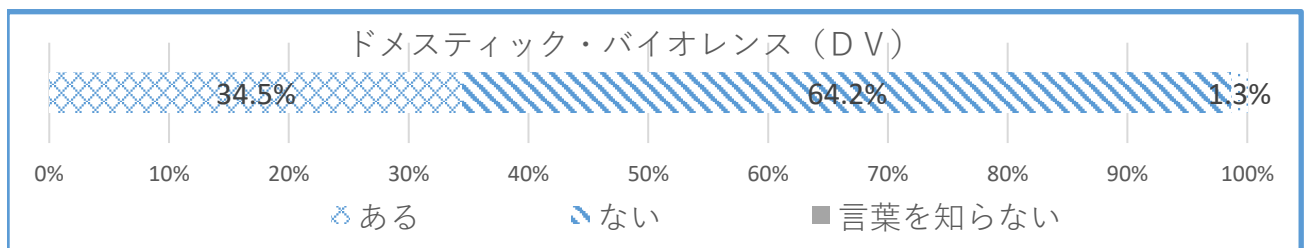
### ※参考【第2次プラン策定時】

回答	回答項目	回答数	割合	
			回答数	回答者数
回答	家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識	53人	20.2%	36.1%
	男性優位の組織運営	57人	21.8%	38.8%
	家庭の支援、協力が得られない	44人	16.8%	29.9%
	女性側が消極的	40人	15.3%	27.2%
	女性が出られる環境にない	54人	20.6%	36.7%
	わからない			
	その他	14人	5.3%	9.5%
	計	262人	100.0%	

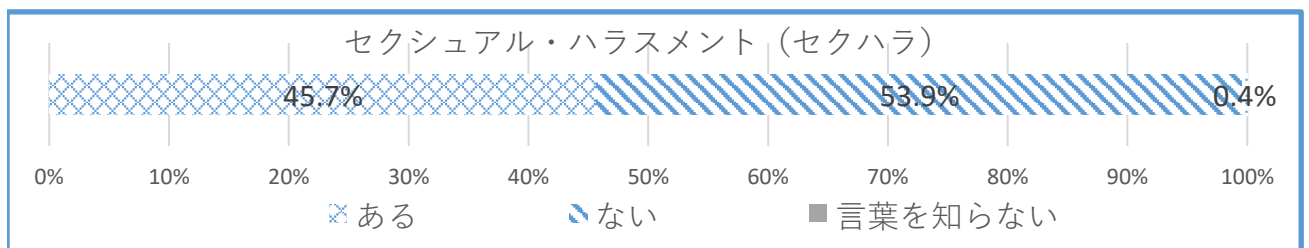
⑦一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて

あなたは次のような人権侵害を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。

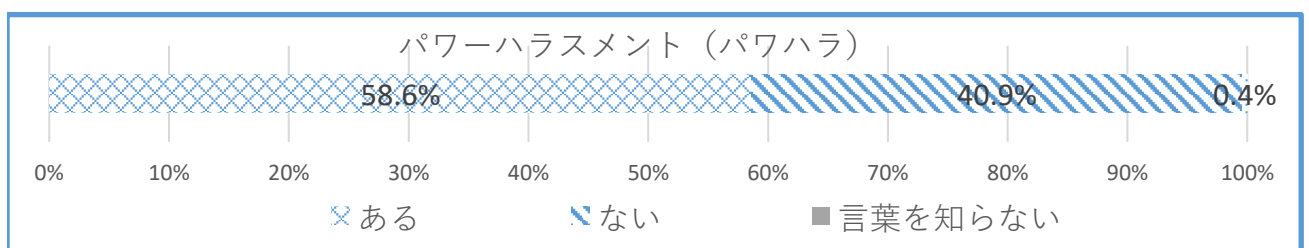
アンケート回答者の総数は232人であり、ドメスティック・バイオレンス（DV）、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）については「ない」と回答した人が一番多く、パワーハラスメント（パワハラ）については「ある」と回答した人が多かった。ただし、DV、セクハラ、パワハラそれぞれで、受けたり、身近で見聞きしたことがあると回答した人が平均46%程度いることから、どこでそのような人権侵害が起こってもおかしくない状況であると思われる。  
第2次プラン策定アンケート調査時は、言葉自体を見聞きしたことがあるかという設問であったため、比較は出来ないが参考として掲載する。



ドメスティック・バイオレンス	ある	80人	34.5%
	ない	149人	64.2%
	言葉を知らない	3人	1.3%
	計	232人	100.0%



セクシュアルハラスメント	ある	106人	45.7%
	ない	125人	53.9%
	言葉を知らない	1人	0.4%
	計	232人	100.0%



パワーハラスメント	ある	136人	58.6%
	ない	95人	40.9%
	言葉を知らない	1人	0.4%
	計	232人	100.0%

※参考【第2次プラン策定時】

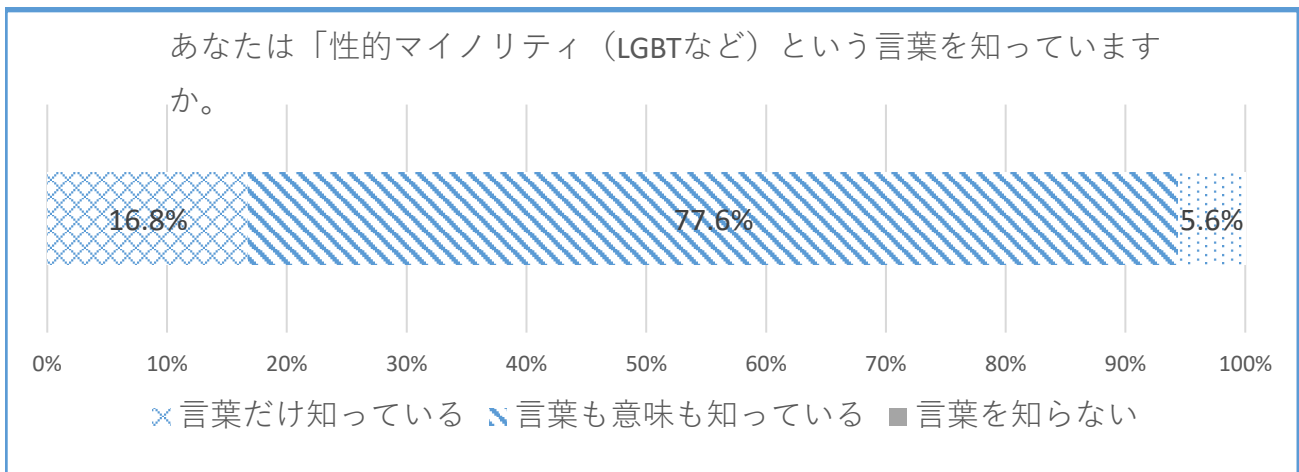
「次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことのあるもの」

ドメスティック・バイオレンス (DV)	88.4%
セクシュアル・ハラスメント (セクハラ)	90.5%
パワーハラスメント (パワハラ)	88.4%

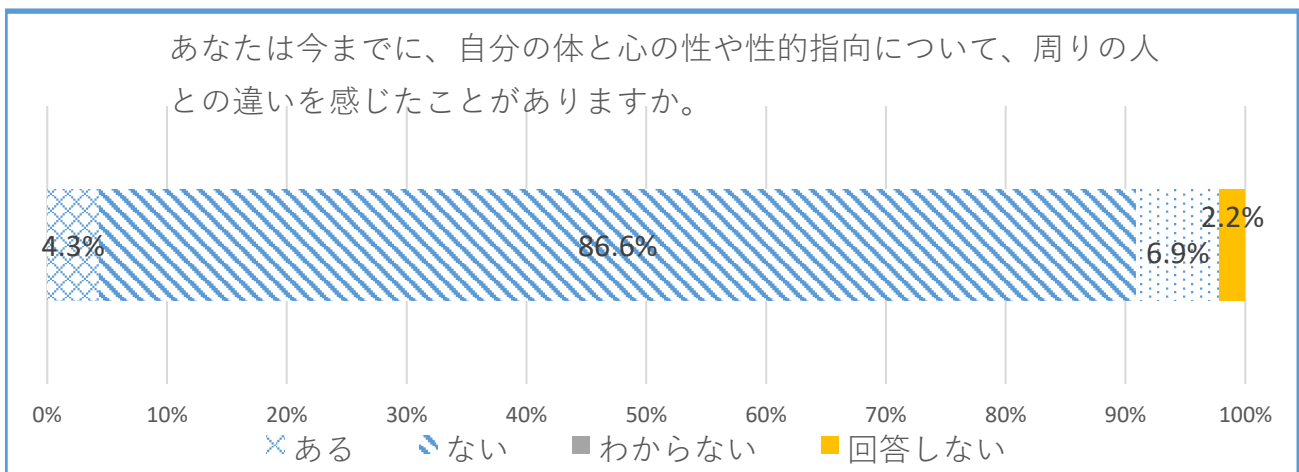
⑦-1 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて

「性的マイノリティ（LGBTなどを含む）についてお答えください。」

アンケート回答者の総数は232人であり、「性的マイノリティ（LGBTなど）」という言葉を知っていますか。」という設問には、77.6%が「言葉も意味も知っている」と回答している。次に「自分の体と心の性や性的指向について、周りの人との違いを感じたことがありますか。」という設問に対しては、86.6%が「ない」と回答したのに対し、「ある・わからない」と回答した人も合わせて11.3%いたという事は、一定割合で違いを自認している人は存在するという結果となっている。



回答	言葉だけ知っている	39人	16.8%
	言葉も意味も知っている	180人	77.6%
	言葉を知らない	13人	5.6%
	計	232人	100.0%



回答	ある	10人	4.3%
	ない	200人	86.6%
	わからない	16人	6.9%
	回答しない	5人	2.2%
	計	231人	100.0%

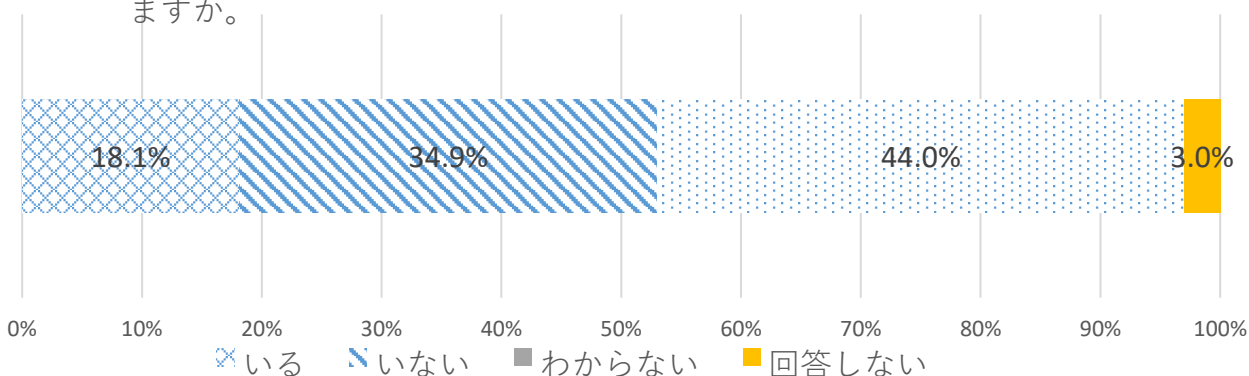
⑦-2 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて

「性的マイノリティ（LGBTなどを含む）についてお答えください。」

アンケート回答者の総数は232人であり、「あなたの周りに「性的マイノリティ（LGBTなど）」である人はいませんか。」という設問には、44%が「わからない」と回答しているが、「いる」と回答した人も18.1%となっている。

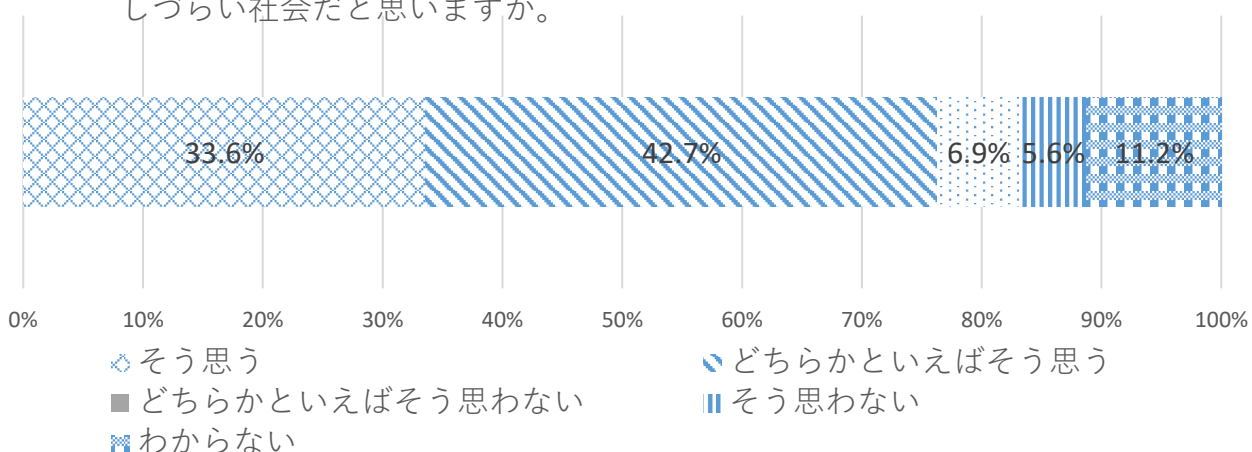
次に、「現在、性的マイノリティの方々にとって、偏見や差別などにより生活しづらい社会だと思いますか。」という設問では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人が合わせて76.3%となっていることから、差別や偏見がまだあると認識している人が多いという結果となっている。

あなたの周りに「性的マイノリティ（LGBTなど）」である人はいませんか。



回答	いる	42人	18.1%
	いない	81人	34.9%
	わからない	102人	44.0%
	回答しない	7人	3.0%
	計	232人	100.0%

現在、性的マイノリティの方々にとって、偏見や差別などにより生活しづらい社会だと思いますか。



回答	そう思う	78人	33.6%
	どちらかといえばそう思う	99人	42.7%
	どちらかといえばそう思わない	16人	6.9%
	そう思わない	13人	5.6%
	わからない	26人	11.2%
	計	232人	100.0%

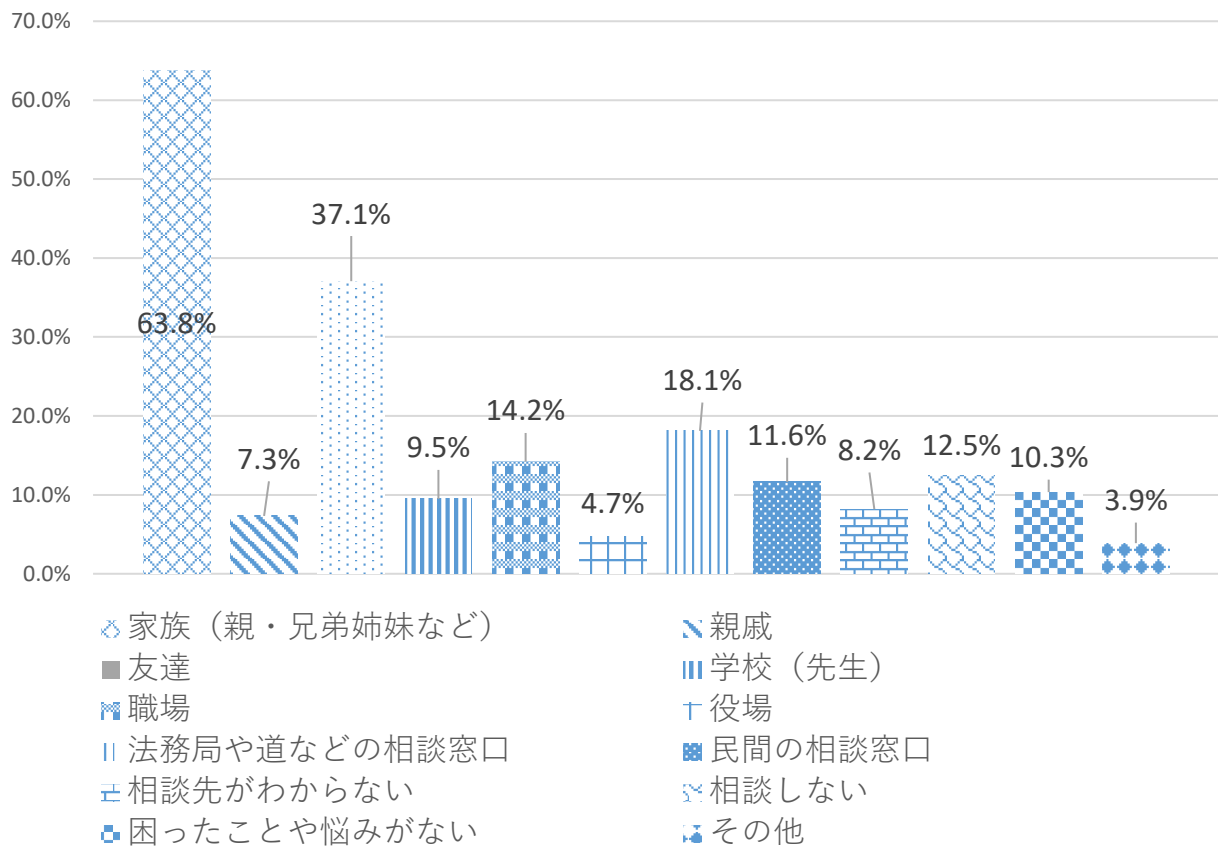
⑦-3 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて

あなたが人権侵害を受けたときや悩んだとき、困ったときにどこ（誰）に相談しますか。あてはまるものをすべて選んで下さい。（複数回答）

アンケート回答者の総数は232人であり、複数回答のため回答者数における割合で比較すると、人権侵害等の相談先として「家族（親・兄弟姉妹など）」と回答した割合が63.8%で最も多く、次いで「友達」（37.1%）、「法務局や道などの相談窓口」（18.1%）となっている。

ただし、回答の中には「相談先がわからない」（8.2%）や「相談しない」（12.5%）という回答もあるため、相談先の周知徹底が必要であると考えられる。

あなたが人権侵害を受けたときや悩んだとき、困ったときにどこ（誰）に相談しますか。あてはまるものをすべて選んで下さい。（複数回答）



	回答数	割合	
		回答数	回答者数
家族（親・兄弟姉妹など）	148人	31.7%	63.8%
親戚	17人	3.6%	7.3%
友達	86人	18.4%	37.1%
学校（先生）	22人	4.7%	9.5%
職場	33人	7.1%	14.2%
役場	11人	2.4%	4.7%
法務局や道などの相談窓口	42人	9.0%	18.1%
民間の相談窓口	27人	5.8%	11.6%
相談先がわからない	19人	4.1%	8.2%
相談しない	29人	6.2%	12.5%
困ったことや悩みがない	24人	5.1%	10.3%
その他	9人	1.9%	3.9%
計	467人	100.0%	

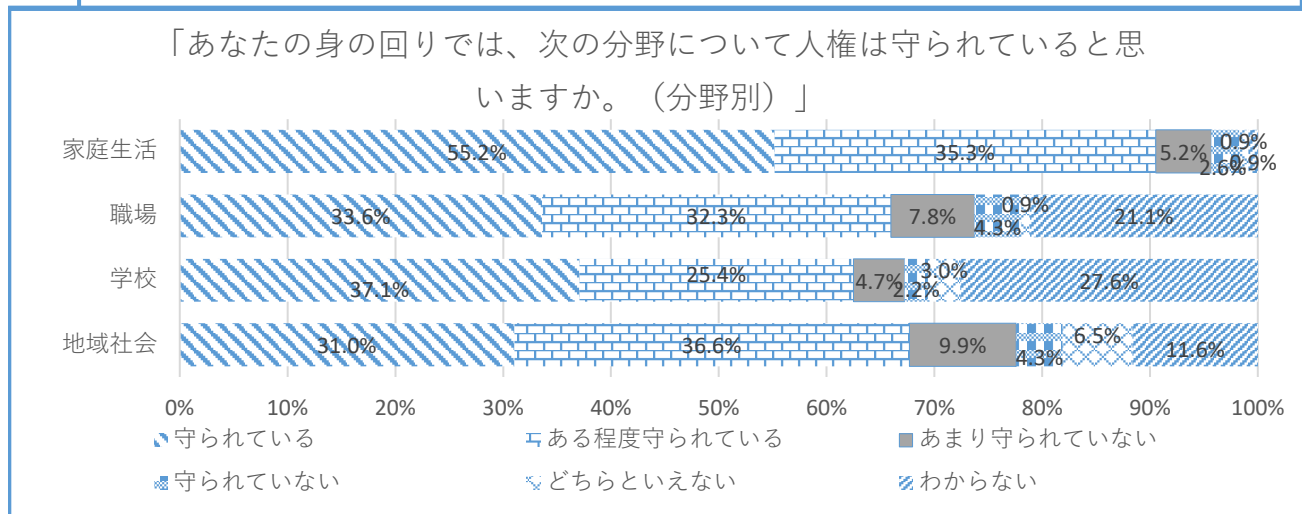
⑦-4 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて

「あなたの身の回りでは、次の分野について人権は守られていると思いますか。（分野別）」

アンケート回答者の総数は232人であり、家庭生活、職場、学校の分野においては「守られている」の割合が一番高く、地域社会の分野では「ある程度守られている」の割合が高くなっている。

全分野を通して、「守られている」「ある程度守られている」を選択した割合は、約70%程度であり、人権が守られていないと感じる人の割合を大きく上回っている結果である。

第2次プラン策定アンケート調査時は、職場の分野を除く全ての分野において「ある程度守られている」の割合が多い結果であった。ただし、「守られている」「ある程度守られている」を選択した割合は今回のアンケートと同程度であるが、積極的に「守られている」と回答した割合は7.7%上昇した。



回答 \ 分野	家庭生活	職場	学校	地域社会	計
守られている	128	78	86	72	364
(割合)	55.2%	33.6%	37.1%	31.0%	39.2%
ある程度守られてい	82	75	59	85	301
(割合)	35.3%	32.3%	25.4%	36.6%	32.4%
あまり守られていない	12	18	11	23	64
(割合)	5.2%	7.8%	4.7%	9.9%	6.9%
守られていない	6	10	5	10	31
(割合)	2.6%	4.3%	2.2%	4.3%	3.3%
どちらともいえない	2	2	7	15	26
(割合)	0.9%	0.9%	3.0%	6.5%	2.8%
わからない	2	49	64	27	142
(割合)	0.9%	21.1%	27.6%	11.6%	15.3%
計	232	232	232	232	928
(割合)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※参考【第2次プラン策定時】

回答 \ 分野	家庭生活	職場	学校	地域社会	計
守られている	57	40	43	27	167
(割合)	38.0%	42.6%	29.1%	19.4%	31.5%
ある程度守られてい	67	34	64	71	236
(割合)	44.7%	36.2%	43.2%	51.1%	44.4%
あまり守られていない	3	8	7	15	33
(割合)	2.0%	8.5%	4.7%	10.8%	6.2%
守られていない	4	1	7	4	16
(割合)	2.7%	1.1%	4.7%	2.9%	3.0%
どちらともいえない	12	9	18	20	59
(割合)	8.0%	9.6%	12.2%	14.4%	11.1%
その他	7	2	9	2	20
(割合)	4.7%	2.1%	6.1%	1.4%	3.8%
計	150	94	148	139	531
(割合)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

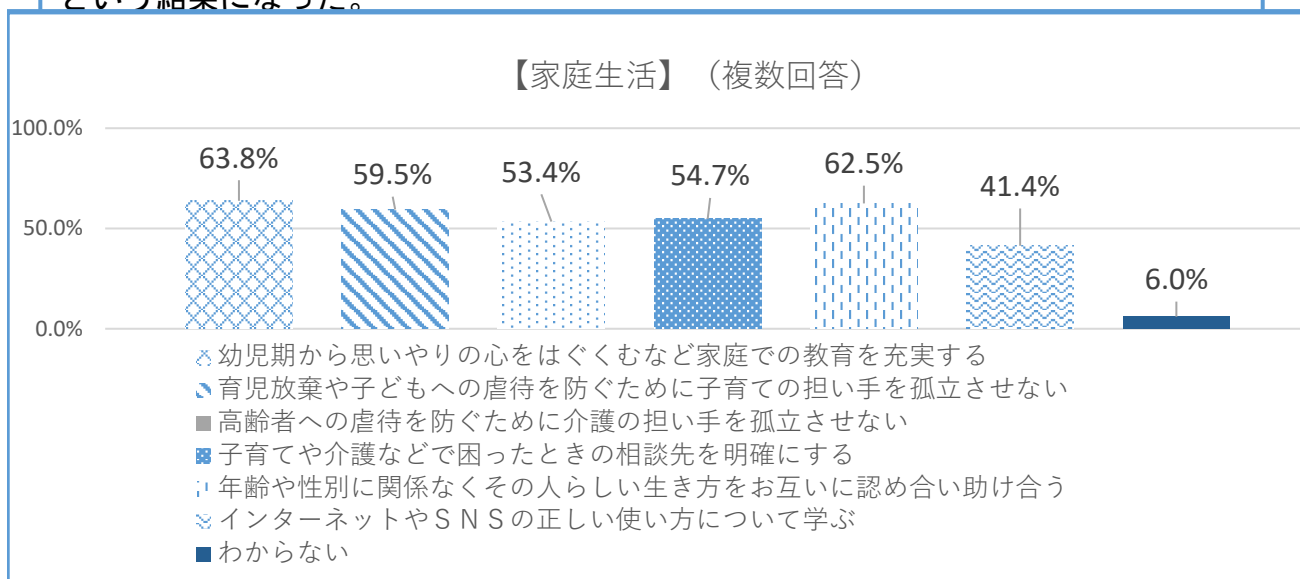


⑦-5 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて

子どもから高齢者まで誰もが、家庭生活・学校・職場・地域社会などあらゆる場面で、一人一人の人権が尊重される社会を実現するためには、どのようにしたらよいと思いますか。（複数回答）

アンケート回答者の総数は232人であり、複数回答のため回答者数における割合で比較すると、家庭生活の分野においては、「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど家庭での教育を充実する」を選択した割合が63.8%で最も多く、「年齢や性別に関係なくその人らしい生き方をお互いに認め合い助け合う」（62.5%）、「育児放棄や子どもへの虐待を防ぐために子育ての担い手を孤立させない」（59.5%）となった。

第2次プラン策定アンケート調査時についても、概ねほとんどの項目で60%以上の回答となっており、家庭生活の分野における「一人一人の人権が尊重される社会を実現するためにどうすべきか」という意識については、大きく変わらないという結果になった。



【家庭生活】	回答数	割合	
		回答数	回答者数
幼児期から思いやりの心をはぐくむなど家庭での教育を充実する	148人	18.7%	63.8%
育児放棄や子どもへの虐待を防ぐために子育ての担い手を孤立させない	138人	17.4%	59.5%
高齢者への虐待を防ぐために介護の担い手を孤立させない	124人	15.7%	53.4%
子育てや介護などで困ったときの相談先を明確にする	127人	16.0%	54.7%
年齢や性別に関係なくその人らしい生き方をお互いに認め合い助け合う	145人	18.3%	62.5%
インターネットやSNSの正しい使い方について学ぶ	96人	12.1%	41.4%
わからない	14人	1.8%	6.0%
計	792人	100.0%	

※参考【第2次プラン策定時】（回答者数147人）

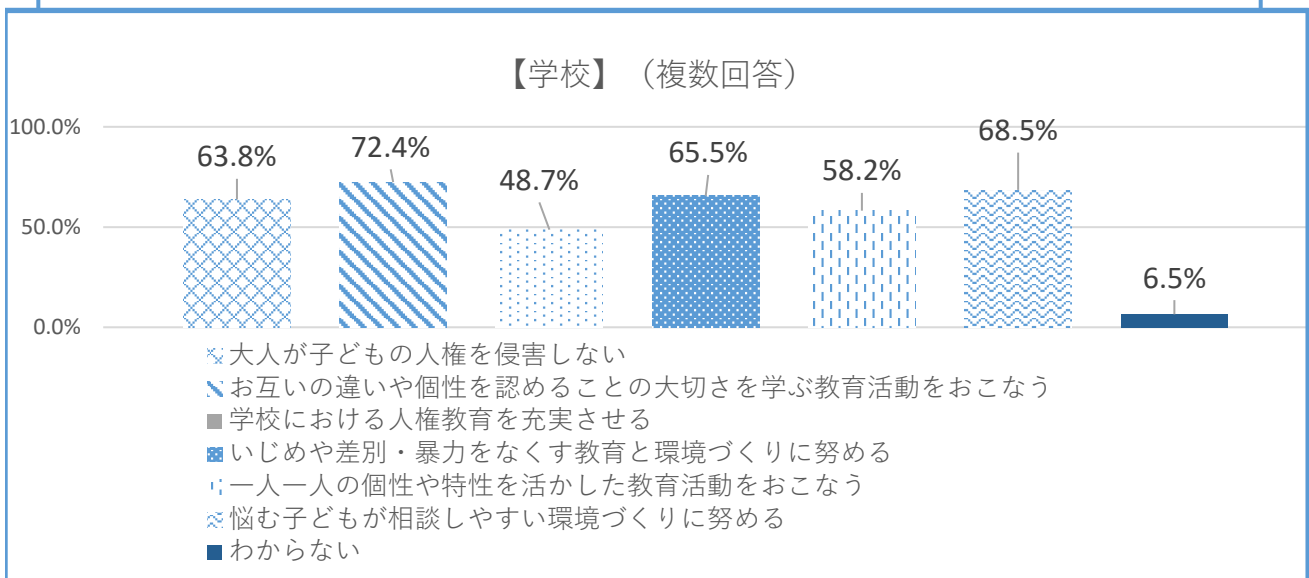
【家庭生活】	回答数	割合	
		回答数	回答者数
幼児期から思いやりの心をはぐくむなど家庭での教育を充実する	100人	19.0%	68.0%
育児放棄や子どもへの虐待を防ぐために子育ての担い手を孤立させない	94人	17.9%	63.9%
高齢者への虐待を防ぐために介護の担い手を孤立させない	92人	17.5%	62.6%
子育てや介護などで困ったときの相談先を明確にする	94人	17.9%	63.9%
年齢や性別に関係なくその人らしい生き方をお互いに認め合い助け合う	88人	16.8%	59.9%
インターネットなどメディアの正しい使い方について学ぶ	45人	8.6%	30.6%
その他	12人	2.3%	8.2%
計	525人	100.0%	

⑦-6 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて

子どもから高齢者まで誰もが、家庭生活・学校・職場・地域社会などあらゆる場面で、一人一人の人権が尊重される社会を実現するためには、どのようにしたらよいと思いますか。（複数回答）

アンケート回答者の総数は232人であり、複数回答のため回答者数における割合で比較すると、学校の分野においては、「お互いの違いや個性を認めることの大切さを学ぶ教育活動をおこなう」を選択した割合が72.4%で最も多く、「悩む子どもが相談しやすい環境づくりに努める」（68.5%）、「いじめや差別・暴力をなくす教育と環境づくりに努める」（65.5%）となった。

第2次プラン策定アンケート調査時についても、同じ項目で60%以上の回答となっており、学校の分野における「一人一人の人権が尊重される社会を実現するためにどうすべきか」という意識については、全体としては上がっているのが、意識としては上がってきているが、回答の傾向としては大きく変わらないという結果になった。



【学校】	回答数	割合	
		回答数	回答者数
大人が子どもの人権を侵害しない	148人	16.6%	63.8%
お互いの違いや個性を認めることの大切さを学ぶ教育活動をおこなう	168人	18.9%	72.4%
学校における人権教育を充実させる	113人	12.7%	48.7%
いじめや差別・暴力をなくす教育と環境づくりに努める	152人	17.1%	65.5%
一人一人の個性や特性を活かした教育活動をおこなう	135人	15.2%	58.2%
悩む子どもが相談しやすい環境づくりに努める	159人	17.9%	68.5%
わからない	15人	1.7%	6.5%
計	890人	100.0%	

※参考【第2次プラン策定時】（回答者数147人）

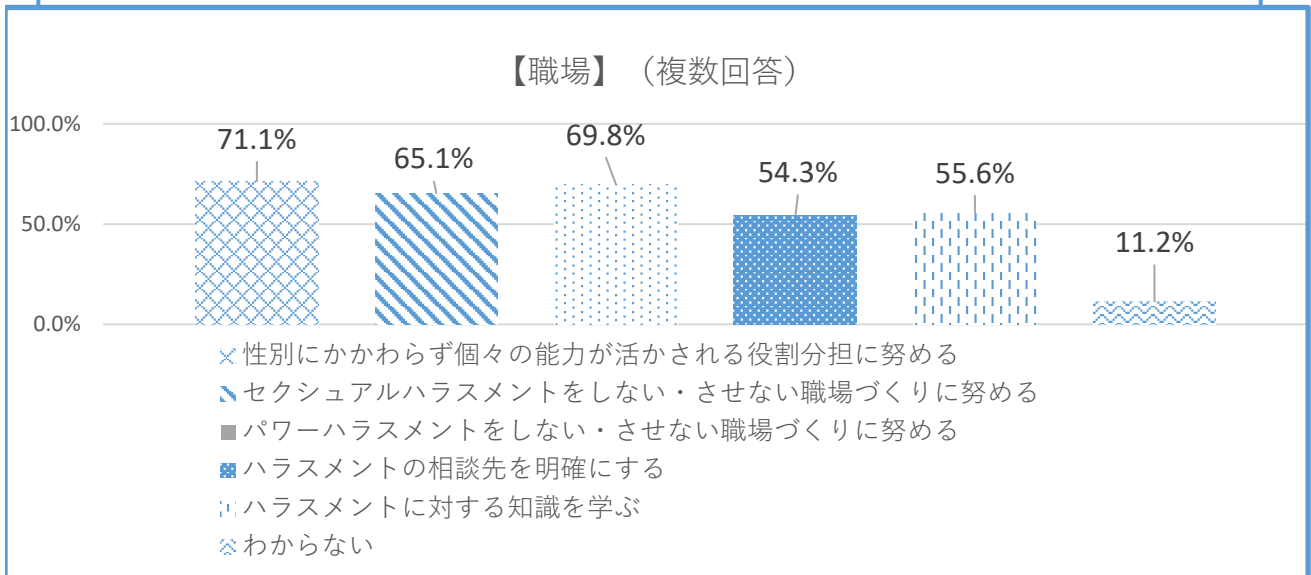
【学校】	回答数	割合	
		回答数	回答者数
大人が子どもの人権を侵害しない	67人	14.1%	45.6%
お互いの違いや個性を認めることの大切さを学ぶ教育活動をおこなう	93人	19.6%	63.3%
学校における人権教育を充実させる	54人	11.4%	36.7%
いじめや差別・暴力をなくす教育と環境づくりに努める	94人	19.8%	63.9%
一人一人の個性や特性を活かした教育活動をおこなう	69人	14.6%	46.9%
悩む子どもが相談しやすい環境づくりに努める	91人	19.2%	61.9%
その他	6人	1.3%	4.1%
計	474人	100.0%	

⑦-7 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて

子どもから高齢者まで誰もが、家庭生活・学校・職場・地域社会などあらゆる場面で、一人一人の人権が尊重される社会を実現するためには、どのようにしたらよいと思いますか。（複数回答）

アンケート回答者の総数は232人であり、複数回答のため回答者数における割合で比較すると、職場の分野においては、「性別にかかわらず個々の能力が活かされる役割分担に努める」を選択した割合が71.1%で最も多く、「パワーハラスメントをしない・させない職場づくりに努める」（69.8%）、「セクシュアルハラスメントをしない・させない職場づくりに努める」（65.1%）となった。

第2次プラン策定アンケート調査時についても、全く同じ順位での回答となっており、職場の分野における「一人一人の人権が尊重される社会を実現するためにどうすべきか」という意識については、「性別にかかわらず個々の能力が活かされる役割分担に努める」のは当然の意識として、より「ハラスメントをしない・させない職場づくりに努める」という意識が割合として高くなってきているという結果になった。



【 職 場 】	回答数	割 合	
		回答数	回答者数
性別にかかわらず個々の能力が活かされる役割分担に努める	165人	21.7%	71.1%
セクシュアルハラスメントをしない・させない職場づくりに努める	151人	19.9%	65.1%
パワーハラスメントをしない・させない職場づくりに努める	162人	21.3%	69.8%
ハラスメントの相談先を明確にする	126人	16.6%	54.3%
ハラスメントに対する知識を学ぶ	129人	17.0%	55.6%
わからない	26人	3.4%	11.2%
計	759人	100.0%	

※参考【第2次プラン策定時】（回答者数147人）

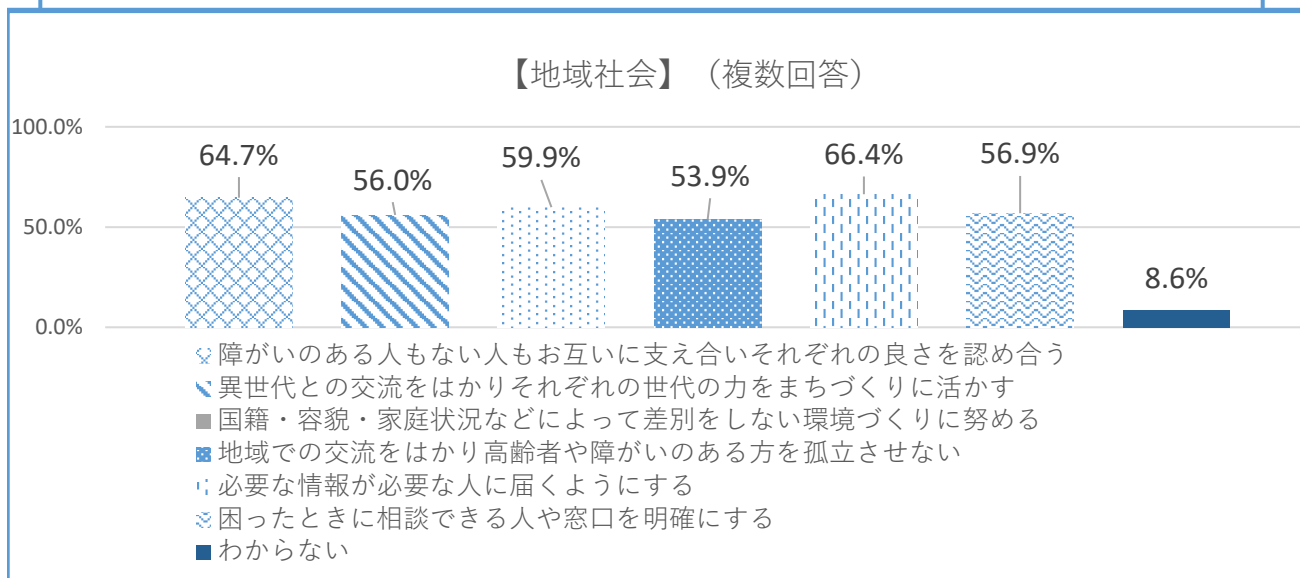
【 職 場 】	回答数	割 合	
		回答数	回答者数
性別にかかわらず個々の能力が活かされる役割分担に努める	105人	25.8%	71.4%
セクシュアルハラスメントをしない・させない職場づくりに努める	83人	20.4%	56.5%
パワーハラスメントをしない・させない職場づくりに努める	91人	22.4%	61.9%
ハラスメントの相談先を明確にする	67人	16.5%	45.6%
ハラスメントに対する知識を学ぶ	53人	13.0%	36.1%
その他	8人	2.0%	5.4%
計	407人	100.0%	

⑦-8 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向けて

子どもから高齢者まで誰もが、家庭生活・学校・職場・地域社会などあらゆる場面で、一人一人の人権が尊重される社会を実現するためには、どのようにしたらよいと思いますか。（複数回答）

アンケート回答者の総数は232人であり、複数回答のため回答者数における割合で比較すると、地域社会の分野においては、「必要な情報が必要な人に届くようにする」を選択した割合が66.4%で最も多く、「障がいのある人もない人もお互いに支え合いそれぞれの良さを認め合う」（64.7%）、「国籍・容貌・家庭状況などによって差別をしない環境づくりに努める」（59.9%）となった。

第2次プラン策定アンケート調査時については、その他を除いた各項目の回答割合は平均で55.4%であり、今回の調査の平均（59.6%）と比べて、大きくは変わらないが人権を尊重するという意識は全体として上がってきていると考えられる。



【地域社会】	回答数	割合	
		回答数	回答者数
障がいのある人もない人もお互いに支え合いそれぞれの良さを認め合う	150人	17.6%	64.7%
異世代との交流をはかりそれぞれの世代の力をまちづくりに活かす	130人	15.3%	56.0%
国籍・容貌・家庭状況などによって差別をしない環境づくりに努める	139人	16.4%	59.9%
地域での交流をはかり高齢者や障がいのある方を孤立させない	125人	14.7%	53.9%
必要な情報が必要な人に届くようにする	154人	18.1%	66.4%
困ったときに相談できる人や窓口を明確にする	132人	15.5%	56.9%
わからない	20人	2.4%	8.6%
計	850人	100.0%	

※参考【第2次プラン策定時】（回答者数147人）

【地域社会】	回答数	割合	
		回答数	回答者数
障がいのある人もない人もお互いに支え合いそれぞれの良さを認め合う	95人	19.2%	64.6%
異世代との交流をはかりそれぞれの世代の力をまちづくりに活かす	74人	15.0%	50.3%
国籍・容貌・家庭状況などによって差別をしない環境づくりに努める	63人	12.8%	42.9%
地域での交流をはかり高齢者や障がいのある方を孤立させない	79人	16.0%	53.7%
必要な情報が必要な人に届くようにする	86人	17.4%	58.5%
困ったときに相談できる人や窓口を明確にする	92人	18.6%	62.6%
その他	5人	1.0%	3.4%
計	494人	100.0%	

⑧ その他（自由記載）

その他、男女共同参画社会についてのご意見がありましたら、ご記入ください。

・特に、ハラスメントについては職場内での相談が出来ない環境の様に思えます。「役場内」議会でも数年前から議題となっておりますが、状況は、変わっていないように感じます。今でも苦しんでいる人がいると思われまます。早期解決のため、相談窓口として第三者機関の設置、また研修の強化(特に管理監督者)をするべきと考えます。

・男女差別やハラスメントに関して思うところは多々あります。男だから女だからって考える前に適材適所って言葉もあるし、どう頑張っても男に子供は産めない授乳もできないし、男性の裸が女性の裸の価値を越える事は無理で、人間である以上はどうあっても越えられない線がある訳で、じゃあどうやって解決するのかってなったら法整備どうこうじゃなく[個々の優しさ思いやり]の延長線上にあるんじゃないかと思ひます。ハラスメントに関しても同じでお互いに余裕が無いから強く言うし、変に捉えてしまって生じてる所が多いんじゃないかなとも思ひます。癒しの少ない都会だと余計に。あとは単純に親や社会に守られ過ぎて耐性の無いヒトが多いんじゃないかと思ひます。

・確実にできることをプランに策定すべき そして実行すべき。現実認識をきちつと捉え 美辞麗句だけのプランは 策定すべきでない。プランあるないにかかわらず 日常的に男女共同参画の意味 を常に啓蒙普及すべき。

・拘りすぎないのがいいと思ひ

・障がいを持っている人の為のヘルプマークを周知してもらいたい！精神的な障がいを持った人だけでなく身体障がいの人も働ける場所を作ってくれたらもっというと思ひ！

・社会において女性管理職を増やす取組が行われているが、八雲町のような中小企業や役所の場合、女性の総体人数の比率も少なく、また、その中で管理職になりたい女性割合も少ないと思ひる。この考え方が見えない偏見かも知れないが、そのような中で、女性だからと優遇され昇進されるのには疑問を感じる。男性・女性関わらず意識や能力を判断して昇進すべきで、女性比率が少ない中では女性管理職が少ないのも当然と考える。男女共同参画社会というイメージが女性の社会参画を増やすイメージがあるが、女性特有の感情起伏や力仕事など、男性が配慮しなくてはいけない事案もある。男性も女性も育児に参加でき、それぞれの価値観、人権が尊重できる社会をめざせば、定義的な女性比率での実績などは意味がないと思ひる。

・人権侵害とは何かはまだまだ浸透していないと痛感しています。もっとみんなで勉強しましょう

・性的マイノリティを保護するあまり、女性や子供といった弱者の安全にトイレに行く、着替えるなどの権利を脅かされないよう、身体男性、身体女性、その他多目的とするなどが大前提であり、トイレなどといった女性の安全な場を減らすことは断固反対です。

・人と人とのつながりを大切に、困っている人を見つけ、救済するために町も町民も共に協力しあえる仕組み。教育、人を大切にしたい町づくり！人を大切にすることを大人が子供達に示していく。

<p>・八雲町の男女共同参画委員会の議論や活動内容等が全く町民に広報されてないですね。そもそも、どんな構成メンバーなのかもわからない??</p>
<p>・男女共同参画についてとても関心を持っております。実際に、男女共同参画の実現を目指す会が果たしている、もしくは実際にどのように取り組み成果があったのか、それをわかりやすく伝えてもらえる場がほしい。</p>
<p>・自分が正しいと考える人が多く、話を聞かない、またその人の子どもも親と同じで話も聞かない環境が見受けられる。家庭内での考え方や、小さい考えに捕らわれず色々な講習や周知文が必要だと考える。現在のモンスターペアレンツの現状も子供より親の知識不足や理解能力の低下がとても多く、親世代の改善等を行わない限り子供の教育にも影響を及ぼし、更に変わった社会情勢へと変わっていくと考える。</p>
<p>・子ども青年壮年高齢者等から要望、意見を聞きながら策定してほしいと思う。</p>
<p>・子育てする人にとって、子供の突然の発熱や病気に対応を迫られる状況が多々あるので、男女問わず、いつでも対応できるような休みやすい環境を整えることが必要でないでしょうか。またタカラトミーの例でもあるように、育児などを理由に休業・短時間勤務をする人の業務をカバーする人にも「応援手当」を支給するなど、職場全体で気兼ねなく支えあう仕組みが必要ではないでしょうか。</p>
<p>・14の質問（共働き家庭での家事や育児、介護の役割分担について、どのように考えますか）自体が今の社会の現実なんだと思います。質問自体が女性がしないことの選択を与えてもらってない気がしました。</p>
<p>・政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程で女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。の問いに「その他」を選択しました。 八雲町議会の動画が配信されています。八雲町の公式なのでしょうかね？今回のアンケートを通して知ることができました。せっかく良い取り組みをされていますので、今後も発信を続けてほしいと思います。発言者の顔がより見やすく、どんな議会の内容なのか、要点を掲載するなどSNSでの発信を工夫していく事で興味関心、参画者が増えることにつながるのではないかと思います。</p>
<p>・女性が積極的に意見や行動に対して協力する事を各個人が心がけることを行政が推進する事が大事だと思う。</p>
<p>・まだまだ男女の格差はあります。しかし、それも当たり前のように感じます。</p>
<p>・日本社会が男女平等の意識が軽薄でココまで来てしまったわけだから“教育”に力を入れる！とした場合には、学校教育だけではなく社会教育分野で社会人、いわゆる男女平等意識が軽薄なまま“無自覚で大人になってしまった”方々を含めた人権教育、主権者教育を充実させていかなければならない、と思う。しかし、国では無理でしょう…だから、地方からやりましょう！</p>
<p>・男女にかかわらず人間として尊重しあう社会、お互い助け合える私たちになれたらいいですね。</p>
<p>・女性は身体的に体が小さい、トイレの心配など、差別ではなく気を付けてあげなければいけないところがあると思います。平等は大事と思いますが、お互いを認め、思いやり、協力していくことが大切だと思います。</p>

・農業や漁業の事業計画や重要事項を決定する機関に女性の参入が少なすぎる。第一次産業の担い手の考え方（男は仕事、女は家事・育児・介護）を変える手助けを当事者と行政が共に進めていくことが必要ではないか考える。

・高齢者も若い世代の人から学ぶことは多い。異世代間の交流が進むような施策がもっとあればいいし、自分でもその様な機会を作り日々刺激を受けたいと思っている。

# 第3次八雲町男女共同参画プラン策定に関するアンケート調査

八雲町では、平成17年から10年毎にこれまで第1次・第2次プランを策定し、町民一人一人が幸せを実感して生活していくために、性別にかかわらず個人として尊重され、自らの意思により、自由に活動を選択し、多様な分野で個性と能力を発揮することができる社会をめざして取り組んできました。

令和7年度からの第3次プラン策定に向けて、町民の皆様の男女共同参画などに関する意識を調査し、今後のプラン策定にいかしていきたいと考えています。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただきご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年6月 八雲町教育委員会

## 記入にあたってのお願い

- ◆このアンケート調査は無記名式です。また、調査結果は統計的に処理し個別の内容を公表しません。ありのままを回答してください。
- ◆質問ごとに当てはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。  
○印をつける数は、質問中の指示に従ってください。
- ◆回答が「その他」に当てはまる場合は、( ) 内に内容をご記入ください。 QRコード
- ◆記入していただいた調査票は、**7月16日(火)**までに次の場所へ提出ください。



※アンケート回答方法:①Webフォーム、②用紙提出(役場・公民館・落部支所・熊石総合支所)

※記入にあたっての不明な点や調査についてのお問い合わせ

八雲町教育委員会 社会教育課(公民館内) ☎0137-63-3131 FAX0137-64-3848

## あなたご自身についておたずねします

問 1	性別	①男性 ②女性 ③回答しない
問 2	年齢	①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70歳以上
問 3	結婚	①未婚 ②既婚 ③その他
問 4	家族構成	①一人暮らし ②夫婦のみ ③核家族(親と未婚の子ども) ④2世代(親と子ども夫婦) ⑤3世代(親と子どもと孫)
問 5	職業	①自営業 ②会社員 ③公務員・教員 ④医療従事者 ⑤団体職員 ⑥パート・アルバイト ⑦学生 ⑧無職 ⑨その他
問 6	家族の生計を支えている人	あてはまるものすべてに○をつけてください。 ①自分 ②配偶者 ③父親 ④母親 ⑤祖父 ⑥祖母 ⑦その他



## 男女平等意識について

問 7	次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
	家庭生活 ①男性が非常に優遇 ②どちらかというと男性が優遇 ③平等 ④どちらかというと女性が優遇 ⑤女性が非常に優遇 ⑥わからない
	職 場 ①男性が非常に優遇 ②どちらかというと男性が優遇 ③平等 ④どちらかというと女性が優遇 ⑤女性が非常に優遇 ⑥わからない
	学 校 ①男性が非常に優遇 ②どちらかというと男性が優遇 ③平等 ④どちらかというと女性が優遇 ⑤女性が非常に優遇 ⑥わからない
	社会通念やしきたり、習慣など ①男性が非常に優遇 ②どちらかというと男性が優遇 ③平等 ④どちらかというと女性が優遇 ⑤女性が非常に優遇 ⑥わからない
	法律や制度上 ①男性が非常に優遇 ②どちらかというと男性が優遇 ③平等 ④どちらかというと女性が優遇 ⑤女性が非常に優遇 ⑥わからない
問 8	「男は仕事、女は家庭」といった役割を固定化した考え方について、あなたはどのように思いますか。 ①賛成する ②賛成しない ③どちらとも言えない ④わからない
問 9	「男は男らしく、女は女らしくあるべき」といった考え方について、あなたはどう思いますか。 ①同感する ②同感しない ③どちらとも言えない ④わからない
問 10	共働き家庭での家事や育児、介護の役割分担について、どのように考えますか。 ①分担をあらかじめ決めて行うのがよい ②どちらでも手のあいている方が行うのがよい ③主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい ④男性はしなくてもよい ⑤わからない

## 町の政策等について

問 11	政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程で女性の参画が少ないのはなぜだと思いますか。 <u>あてはまるものをすべて選んで下さい。</u>
	①家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識 ②男性優位の組織運営 ③家族の支援、協力が得られない ④女性側が消極的 ⑤女性が出られる環境にない ⑥わからない ⑦その他（具体的に )



子どもから高齢者まで誰もが、家庭生活・学校・職場・地域社会などあらゆる場面で、一人一人の人権が尊重される社会を実現するためには、どのようにしたらよいと思いますか。あてはまるものをすべて選んで下さい。

問 1 6

家庭生活

- ①幼児期から思いやりの心をはぐくむなど家庭での教育を充実する
- ②育児放棄や子どもへの虐待を防ぐために子育ての担い手を孤立させない
- ③高齢者への虐待を防ぐために介護の担い手を孤立させない
- ④子育てや介護などで困ったときの相談先を明確にする
- ⑤年齢や性別に関係なくその人らしい生き方をお互いに認め合い助け合う
- ⑥インターネットやSNSの正しい使い方について学ぶ
- ⑦わからない

学 校

- ①大人が子どもの人権を侵害しない
- ②お互いの違いや個性を認めることの大切さを学ぶ教育活動をおこなう
- ③学校における人権教育を充実させる
- ④いじめや差別・暴力をなくす教育と環境づくりに努める
- ⑤一人一人の個性や特性を活かした教育活動をおこなう
- ⑥悩む子どもが相談しやすい環境づくりに努める
- ⑦わからない

職 場

- ①性別にかかわらず個々の能力が活かされる役割分担に努める
- ②セクシュアルハラスメントをしない・させない職場づくりに努める
- ③パワーハラスメントをしない・させない職場づくりに努める
- ④ハラスメントの相談先を明確にする
- ⑤ハラスメントに対する知識を学ぶ
- ⑥わからない

地域社会

- ①障がいのある人もない人もお互いに支え合いそれぞれの良さを認め合う
- ②異世代との交流をはかりそれぞれの世代の力をまちづくりに活かす
- ③国籍・容貌・家庭状況などによって差別をしない環境づくりに努める
- ④地域での交流をはかり高齢者や障がいのある方を孤立させない
- ⑤必要な情報が必要な人に届くようにする
- ⑥困ったときに相談できる人や窓口を明確にする
- ⑦わからない

**男女共同参画社会についてのご意見がありましたら、ご記入下さい。**

ご協力ありがとうございました